

第3回伊達市教育振興基本計画策定委員会
(社会教育部会)
会 議 録

伊 達 市 教 育 委 員 会

審 議 会 会 議 録

| | | | |
|--|--|----------|----|
| 会議名称 | 伊達市教育振興基本計画策定委員会 社会教育部会（第3回） | | |
| 議 題 | 議事 ①「青少年・スポーツ」に関する現状と課題について ②「青少年・スポーツ」に関する事業実績等について | | |
| 開催日時 | 平成29年9月26日（火） 18：30～20：10 | | |
| 場 所 | 市民活動センター 多目的室3 | | |
| 出席委員 | 部会長 他12名 | | |
| | 所管部課名 | 教育部生涯学習課 | |
| 公開 非公開 の 別 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 | 傍聴者の人数 | 1名 |
| | <input type="checkbox"/> 非公開 | 非公開の理由 | |
| <p>《審議会の概要》</p> <p>1. 開会（事務局：生涯学習課長）</p> <p>2. 部会長挨拶（部会長）</p> <p>3. 議題 (1) 「青少年・スポーツ」に関する現状と課題について (2) 「青少年・スポーツ」に関する事業実績等について (3) その他 【資料に基づき事務局より説明】 【質疑・意見交換】</p> <p>5. 閉会（事務局：生涯学習課長）</p> <p>-----</p> <p>《会議録詳細》</p> <p>1. 開会の挨拶 ●事務局</p> <p>2. 部会長挨拶 ●部会長</p> <p>3. 議題 (1) 「青少年・スポーツ」に関する現状と課題について ●事務局 ○それでは、青少年・スポーツの現状と課題についてご説明させていただきます。</p> <p style="text-align: center;">第1回、第2回の社会教育部会の時も同様に説明させていただきましたが、現計画</p> | | | |

にも計画策定時（約10年前）の各項目ごとの現状と課題が記載されておりますが、ほぼ10年経ちましたので、今現在の現状と課題とは状況が変わってきております。もちろん今現在に通じる課題もございますが、今回は少し切り口を変えて、説明させていただきたいと思っております。

また、社会教育に係る事業については、複数の要素を持ったものも多く、分類が単純にはいきませんが、その事業の予算科目や担当係を考慮し、分類させていただきましたのでご了承いただきたいと思います。

○まずは、「青少年」分野における現状と課題でございます。

現状についてでございますが、伊達市では青少年の健全な育成に資するため、様々な事業を開催しています。

だてっ子遊び学びの教室では、年6回程度、工作などものづくりや音楽やお話などの鑑賞、星空観測やお茶（抹茶）などを行っており、体験などを通じて、子ども達の心豊かな人間形成に役立っていると考えております。

他にも、親子共同でケーキのデコレーションに挑戦する「親子クッキング」や正月に昔遊びなどを楽しむ「あそびましておめでとう」、絵画の技術を学ぶ「だてジュニア美術セミナー」などをそれぞれ年1回開催しており、これらの事業も先ほどの事業と同様の成果があるものと考えております。

また、亘理町をはじめとする姉妹・歴史友好都市4町と連携し、将来それぞれの地域で活躍できる若者を育てるため、シニアリーダー研修を共同で行っており、これまでも多くの若者に参加をしていただいているところであります。

なお、これらのすべての事業は、普段交流機会の少ない、年齢の異なる子どもや他の学校・地域の子どものとの交流の場ともなっており、子どもたちの社会性を養う良い機会にもなっていると考えております。

補助金でございますが、日本ボーイスカウト伊達第一団と伊達フェイバリットクラブへその活動を奨励するため補助金を交付しております。

成人式については毎年成人の日の前日の日曜日にカルチャーセンターで開催しており、近年は270名程度の参加で推移しております。

青少年の非行等の状況についてでございますが、昔に比べ、発生件数も少なく、暴力的なものなどはほとんど聞かないような状況で表面上は穏やかな状態が続いております。

しかし、近年は昔にはなかったタイプのトラブル＝SNSやネット上のトラブルが増えてきており、表面化しにくいことから注意が必要な状況でございます。

次に課題でございます。

青少年の教育につきましては、昔は胆振青年の家という施設がございまして、市内の子ども達を集めて、様々な事業を頻繁に行っておりました。青年の家が役目を終えた後は、青少年教育は社会教育課＝現在の生涯学習課で担っておりますが、胆振青年の家があったころのようなボリュームでは行えておりません。一時期、青少年事業がほとんど開催していない時期もあったのですが、近年はボランティア団体の協力等もあり、それなりの回数の事業を行うようにしております。土日を中心に事業を行っておりますが、最近の子ども達はスポーツや習い事など忙しいようで（これはこれでスポーツ少年団等が活発に活動されていることの証なので決して悪いことではないし、むしろ奨励されるべきことでありますが・・・）参加者がもう少し多ければと思う時があるのが実情です。

内容も物づくりや音楽やお話などの鑑賞、様々な体験など、同じような内容とならないように工夫をしておりますが、青年の家があったころのような宿泊を伴うような催しや食事をみんなで作って食べるというような事業もアレルギーや食中毒のリスクが高いということで、実施が難しく、子ども達にはやや興味を引きにくい、あるいは新鮮味がないように感じられているかもしれません。

少子化で子供の数自体も減っていますが、各事業とも、もう少し多くの子ども達が

参加してくれればと思っており、内容も更なる工夫が必要であり、課題の一つであると考えています。

また、大滝区の参加者が極端に少ないということと、大滝区のことをもっと伊達の子どもに知っていただきたいという思いから、大滝区で事業ができないかということも課題となっております。

青年に係る事業についてですが、成人式については、毎年、新成人で組織する実行委員会を立ち上げ、思い出となるような成人式を作りあげていただいております。日本ボーイスカウト伊達第一団と伊達フェイバリットクラブに対する補助金につきましては、団体の目的達成のため有効にお使いいただいておりますが、両団体とも構成員が減少しつつあり、今後の団体活動の活性化を期待しているところでございます。

青少年の非行等の発生状況につきましては、低い状況で推移を続けており、青少年指導センターや教護会、警察などと連携した巡回や指導のたまものと考えております。

昔の非行は、暴力、窃盗、飲酒、喫煙などが主流で見えるからという若者が多数いたものですが、今は、見た目は普通だけれども、その裏ではSNSやネットを駆使した犯罪やいじめがあるなど、表面化しにくい現代ならではの非行やトラブルが徐々に増えてきているような状況でございます。

引き続き関係機関との連携の上、非行の未然防止や再発防止に努めてまいります。巡回などでは発覚しにくい現代型な非行について、少しでも早い段階で芽を摘み取れるようなことを考えて行く必要性を感じており、課題だと考えています。

また、青少年指導員について、現在34名の方をお願いをしておりますが、成り手が少なく、かなり高齢の方にも引き受けていただいております。今後、成り手の確保も課題の一つになっています。

○続きまして、「スポーツ」分野に入らせていただきます。

まずはスポーツ振興の現状についてです。

スポーツの振興につきましては、スポーツ推進員をはじめ、体育協会や地域体育振興会とともに誰もがスポーツに親しめるような機会の創出や環境の整備を進めており、多くの市民がスポーツを楽しんでいます。

近年は介護予防にも効果がある「ふまねっと」をより広げるため、スポーツ推進員が指導資格を取得し精力的に普及活動しております。

また、市民や市外の方にも参加していただけるスポーツイベントとして、春一番伊達ハーフマラソン大会、大滝国際ノルディックウォーキング大会、おたき国際スキーマラソン大会の開催を支援しており、毎年多くの方に参加をしていただいております。

他にも地区の予選を勝ち抜き、全道大会や全国大会に駒を進めるチームや選手に対し、出場に係る経費の負担軽減のため、3つの補助制度を有しており、多くの方々に利用していただいております。

また、体育協会、地域体育振興会、スポーツ少年団の活動に対しても補助金を交付しており、それぞれの活動を奨励しております。

次にスポーツ施設についてです。

スポーツの施設としては総合体育館（プールとトレーニング室を含む。）をはじめとして、まなびの里パークゴルフ場、まなびの里サッカー場、館山野球場など全部で7施設を所管しており、直営のまなびの里サッカー場を除き、他は全て指定管理者による管理運営を行っております。【残り3施設武道館、関内PG、B&G】

また、小中学校の体育館を夜間と休日に開放し、多くのスポーツ団体に利用をしていただいております。

次に課題です。

スポーツの振興、特に普及については、スポーツ推進員を中心に進めておりますが、今現在も定員に達しておらず、高齢の推進員もいることから、スポーツ推進員の成り手の確保が一つの課題となっております。

ハーフマラソンをはじめとする3大会につきましては、それぞれ回数を重ね、すっかり定着したものと考えております。

しかし、大きな大会になるとその準備にはかなりの労力を要します。

特にハーフマラソンについては参加者だけで約4,000人と準備には相当な手間と時間がかかりますが、高齢化などから、これまでの実行委員会だけでは運営が難しくなってきました。

そこで、本年度の大会から、市も実行委員会にこれまで以上に深く関与するようにし、いずれ実行委員会の中心が市となるよう進めておりますが、盤石な運営体制となるためには今少し時間がかかりそうでございます。

スポーツ施設に関しては、総合体育館とまなびの里サッカー場は、開設以来高い水準で、利用者は推移しております。他の施設についてもまずまずの利用状況で推移しておりますが、まなびの里パークゴルフ場については、バスチャーター代の高騰や近隣に新コースが整備されたなどの理由により、開設当初ほどの勢いはなくなっております。

これらの施設についても、更に利用していただけるよう、指定管理者による工夫が一つの課題だと考えております。

また、まなびの里サッカー場につきましては、スポーツ施設の中で唯一直営となっておりますことから、指定管理導入に向けて検討を続けております。旧有珠中学校校舎を活用した研修棟については、人工芝グラウンドや体育館に比べると極端に利用されておらず、市内に宿泊可能な研修施設がないことから、指定管理化と併せて、宿泊利用もできないか研究を進めており、実現が一つの課題となっております。

なお、B&G海洋センターの艇庫につきましては、平成27年度の台風により、施設が大きく破損したことから、平成28年度より利用休止とさせていただいております。

現状と課題については、以上です。

(3) 「青少年・スポーツ」に関する事業実績等について

●事務局

事業実績について報告いたします。

それでは、わたしのほうから「青少年・スポーツ」に関する平成28年度の事業実績について説明させていただきます。

配布させていただきました、「平成28年度 社会教育事業報告」の1ページ目をご覧ください。

まず、青少年事業ですが、「だてっ子遊び学びの教室」を6回と記載の事業を各1回づつ開催をしております。

青少年事業の実施目的ですが、活動の場を提供し青少年の健全育成を図るため、様々な体験と世代間の交流を通じて「気づき」を与えることを主な目的に実施しております。

本事業への参加を通じて、積極性であったり、探究心の向上であったり、刺激を受けて子どものやる気を引き出すなど、学校での勉強にも相乗効果をもたらすものではないかとも思います。

事業の実施対象、参加対象ですが、「だてっ子遊び学びの教室」は小学生を対象と

して実施しております。(なお、出席委員が所属しております団体ドロップの多大なる協力を得て実施しているところであります。)

だてジュニア美術セミナーは小学4年生から中学3年生。

親子クッキングは小学4年生から中学3年生の児童生徒及びその保護者。

あそびましておめでとうは小学生を対象に実施しております。

なお、基本的には児童生徒が参加対象ですが、一部の事業は保護者と一般の方の参加も得ながら実施しております。

姉妹友好都市シニアリーダー研修は、スポーツ少年団に所属しております、中学生及び高校生の参加とスポーツ少年団本部の指導者である社会人の協力を得て実施しており、姉妹友好都市への派遣と伊達市への受け入れを行いながら、姉妹友好都市のシニアリーダーと交流と研鑽を重ねてリーダーシップの資質向上を行っております。

成人式の実施内容については、言わずもがなの面もございますが、毎年、新成人で組織する実行委員会を立ち上げ、数少ない青年団体である伊達フェイバリットクラブの協力を得ながら実施しており、セレモニーでありながらも、企画及び準備段階を通じて社会経験といえますか、青少年の育成に貢献するものと位置付けております。

参加者の反響ですが、一部の事業を除き、毎回、アンケート調査を実施しており、大半の子供たちから「楽しかった」と好評の声をちょうだいしておるところでございます。

課長が課題の中での説明でも触れましたが、メニュー・実施内容が毎年同じものにならないようにすることに心がけ、より多くの児童生徒に関心を持ってもらい少しでも多くの参加者を集めることを心がけております。

資料の3ページ「平成29年度 社会教育事業委計画」に記載のとおり、今年度は新たなメニューとして、伊達出身の気鋭の彫刻家である「渡辺元佳 氏」を招聘し、ダンボールを使った作品づくり体験を実施して子供達の好評を得たところであります。

今後とも、協力団体の皆様の協力をいただきながら、様々な企画やメニューを考えていきたいと思っております。

つづきまして、スポーツ事業です。

スポーツ事業は、記載のとおり、4月のハーフマラソン大会に始まり例年開催しております、おおたきノルディックウォーキング、国際スキーマラソンを開催しております。

スポーツ事業の主たる目的ですが、スポーツを通じて健康を増進して、健康寿命の延伸することなどがあると思っておりますが、当課の社会教育係で実施しております各事業の目的とも重なるものと思っておりますが所謂「いきがづくり」も大きな目的に実施しているところでございます。

参加者数はハーフマラソンが概ね4,000人前後で推移しており、当市の春のビッグイベントとして、スポーツ振興のみならず、まちづくりや商工業振興にも大きく寄与するイベントとして、発展してきました。

ノルディックウォーキングも今年度は18回、スキーマラソンは28回を数え、大滝区の風物詩として、こちらもスポーツのみならず地域振興と地域PRに大きく寄与するイベントとして発展しております。

なお、本資料に記載はしておりませんが、皆様にお配りしております、施設のパフレットにおきまして、総合体育館及び温水プールトレーニング室では指定管理者のもと各スポーツサークル・一般利用者の使用に供する他、独自事業として各種教室・講習会を実施して、スポーツの普及振興を図り、市民の生きがいに鋭意努めてもらっております。

また、まなびの里サッカー場はゴムチップ人工芝を備え、天然芝とは違い、連続使用に耐え、ライン引きなどの手間がかからない非常に使い勝手の良い施設として市内はおろか近郊市町村のサッカー少年団のみならず、夏季には札幌、釧路などのチームにも利用されております。

土日祝日はほぼ、小中学生から社会人までの試合や大会で埋まっており、利用者数も堅調に推移しているところがございます。

以上です。

【質疑・意見交換】

1. 青少年分野について

●部会長

青少年・スポーツの分野を分けて議論していきたいと思います。

まずは、青少年の分野からお願いします。

□委員

青少年事業の実施主体は市なのか？平成29年度は協力団体として「ドロップ」などの団体名の記載があるが？

●事務局

資料の体裁が年度で異なりました。平成28年度につきましても、ドロップさんをはじめとした団体さんに協力をいただき実施しております。

□委員

ドロップの代表をされており、各事業に参加しておりますが、協力する側としても刺激になるというか、やっていて楽しい事業です。

●事務局

JCにも青少年事業をやってもらい、こちらは市がお手伝いという立場だったのですが、迎賓館に宿泊してもらおう等の内容で実施しました。

また、体育館では体協が主催となり、災害体験ということで体育館が避難施設ということもあり実際に寝泊まりしてもらったり、着衣水泳をしてもらおうというものでした。非常に良い事業だったものと思います。

□委員

親子クッキングですが、16組の参加となっておりますが、今年度、給食センターがオープンするので、スペースもあると思うので、あそこで実施すればもっと多くの参加を募り実施することができるのではないかと？今後は給食センターで実施するお考えはあるか？

●事務局

今年度は年明けのオープンであり、まだ稼働していないことから、平成28年度と同様の内容で実施することとしております。

親子クッキングにつきましては、講師が1名ということもあり、指導ができ、また目が届く人数が実績に記載されている人数ということで、講師となる方と協議して決定しております。

平成29年度、給食センターでもっと参加者を広く募り実施できるようであれば検討していきたいと思っております。

●部会長

規模を大きくするほか、回数を増やすという方法もあるのではないかと？

□委員

給食を皆でつくろう！という内容もよいのではないかと？

●事務局

冬場はノロウィルスの心配もあるので、ほんとうは冬場に餅つきなどをさせてあげたいのですが、リスクが伴うと中々やりにくいのです。

□委員

給食センターは食育センターなので、もしかしたら青少年事業とは別に調理体験などの事業を実施することを考えているのかもしれないですね。

●事務局

我々の事業はもちろんのこと、給食センターの実施事業ということでも働きかけていきます。

運営会社が入り自主事業を実施できることとなっており、青少年のみならず広く一般の市民を対象としても実施できるのかなと思います。

●部会長

これを提言に載せてみてはどうかと思うのですが？

社会教育に限らずこういう事業を実施するべきということで提言の一つにしたいと思います。

□委員

合併して、大滝区は人口が1000人を切ったが、子どもさんの人数はどのくらいなのか？

黄金小が統合となり、学校開放施設が減少していき地域のスポーツ団体の活動の場が無くなっていくという問題がある。

●事務局

児童数ですが、大体、大滝小は26名。大滝中は14名です。

●事務局

スポーツのほうで議論及び説明をさせていただきたいと思います。

□委員

成人式ですが、非常に良い内容であると見させてもらっております。

先生からのビデオメッセージや校歌を歌うなど、バンドなど。

新成人が企画している内容で非常にいいなと思う反面、暴力沙汰ではないが、事件などもあると聞くが？

●事務局

先ほど説明したSNSなどの問題は成人式ではなく、青少年の「非行」の問題であります。

昔は見た目で非行少年という人がいたが、現在は中々わかりづらくなっている問題があるので非行を未然に防ぐというのが課題となっていることを説明しました。

●部会長

全国的には荒れた成人式もあるが、伊達市ではこのようなことは無い。

□委員

毎年、同じ流れではあるが、その年の新成人が考えた内容が盛り込まれており、参画型の成人式で良い内容であると思うので、是非一度ご覧になってみては？

□委員

SNS等の問題について説明がされたが、青少年事業では「昔あそび」、「スポーツ」などはあるが、コンピューター・情報社会に向けた事業・メニューを盛り込む考えはあるか？

●事務局

正しいスマートフォンの使い方と言って、子どもたちが集まるかどうかという問題がある。PTAや学校などでもそういう問題に取り組んでいるとも聞いている。

□委員

例えばプログラミングなどの楽しみを教えながら、SNSの使い方やマナーなどは遊びながら正しい使い方も教えて覚えていくものなのかなと思う。
将来に向けて子供たちに生涯学習の中でICTなどの教育を盛り込んでいくのかどうかを検討してもらいたいと思います。

●事務局

皆様のご意見として、実現性はともかく提言に盛り込んだほうがよいということであれば提言としたいのですが？

□委員

SNSが炎上したなどは学校ではチェックできるのか？

●事務局

家庭の中で起きた問題で、それが家庭の中で納まっていれば学校で関知するところではないので、学校では把握をしておりません。
ただ、SNSを使う以上はそれが誰かと繋がっているのも、それが何かしらの問題となった場合はその問題が学校に持ち出され、学校内の問題ではなくともその解決は学校に求められます。
そういうケースは増えております。

□委員

SNSでの炎上は少ないが、LINE上のトラブルが多い。
それは言葉が未熟であるがために起こる問題である。
例えば、友達に約束の場所までどのように来るのか？（徒歩・クルマ）を聞くのに「何で来るの？」という風に聞いてしまうなど・・・。
これが人間関係のトラブルになり修復が難しくなる。
基本的には親が契約して子供に与えているものなので、最終的な責任は親にある。

□委員

子供もそうだが、SNSは親も注意してほしい。

□委員

公共施設に端末を置いて、情報にアクセスしていく環境の整備はどうなっているか？

●事務局

カルチャーセンターにはキオスク端末を置いているが、古くなり更新されず撤去されております。
かつては、各家庭においてIT情報の環境が十分ではなかったが、現在では子供達でもスマホを持っている時代になり、市民要望が低くなってきたということもあります。

- 部会長
室蘭、苫小牧ではP T Aのほうでネットトラブルに取り組んでいると聞いている。
- 事務局
伊達市でも札幌から講師を招聘して、P T Aでネットトラブルの問題に取り組んでいると聞いております。
伊達のP連も意識は高いものであると思います。
- 部会長
委員会としてはネットトラブルを未然に防ぐという観点と、時代の趨勢を鑑みてネットなどI C Tの素晴らしさを子供の段階から教える事業を盛り込むことを提言にすることで委員の皆様は如何でしょうか？
- 委員
1 0年前はこういう問題は無かったが、私としては現代においては注意を喚起するのか、また具体的に事業として取り組んでいくのかは別として、現代の情勢においてはこの問題に関する一文が計画の中に入っているのではないかとと思う。
- 事務局
学校教育部会では、情報教育という項目があり、ネットモラルに対する教育というのも重要であるとして、提言に盛り込むこととなっております。
あくまで学校教育なので、地域・保護者に対するものではありませんが、提言に盛り込むこととなっております。
- 部会長
社会教育として取り組むということで提言に盛り込むこととする。
- 部会長
情報教育こそ世代間交流としても取り組んでいってはどうか？と思う。
皆様のご意見はどうか？
- 委員
かつて3世代交流というのがあったと思うが？
- 委員
黄金小などでは餅ツキをして手紙のやりとりや一緒に植樹をしたりするなどをして現在もそれが続いている。
- 部会長
社会教育としても取り組んではどうか？と思う。
- 委員
「あそびましておめでとう」は長生大学の協力も得て実施している。
その中で世代間交流が図られているのかなと思う。
- 事務局
社会教育として取り組んでいくにはニーズと人材の問題があると思う。
学校という単位では今後成りゆかないということで、コミュニティスクール、学校運営協議会ということで、学校の運営には必ず地域の方が絡んでくるシステムが出来ました。
学校単位で考えるとこれまでやってきた世代間交流は続けていきたいと思いますという立場なので、社会教育はそこで足りないものを補うという立場なのではないか
と思います。

●部会長

大滝区の児童生徒の参加が少ないという問題に関して何かあるか？
社会教育ということで、学校単位・学年に限らず交流を基にした事業を企画すべきではないかというご意見はありませんか？

□委員

大滝区の学校は少人数なので、他の学校との交流というのは面白いと思う。

□委員

大滝村時代にはこのような青少年事業に取り組んでいたのか？

□委員

実施されておりました。

●事務局

大滝区の参加者が極端に少ない現状にある。
伊達地区は1600人の児童がおり、大滝区は30人ぐらいなので割合としてはおかしくないのかもしれないが、伊達までくるのが大変であるという事情もあるが、あまりにも大滝区の児童に対してやってあげられてないという想いがある。
また、伊達の児童が大滝区のことをよく分かっていないのではないかとということもあるので伊達の児童を市バスに乗せて行って、大滝区でしかできないことをやってその場に大滝区の児童を参加させてはどうだろうかということも考えている。

□委員

伊達の子ども会のイベントで大滝へ行って大滝の子ども会と交流するものがあった。

●部会長

提言として盛り込むこととしたいと思います。

□委員

ホロホロ山荘などを宿泊場所として伊達と大滝の子供達の交流を行うべきだ。
なんとなく大滝の子供達が除外されているような感じが否めない。

●部会長・事務局

体験交流型の事業を組めないか、そういう方向の事業に取り組むということで提言に盛り込みたい。

2. スポーツ分野

●部会長

それではスポーツのほうに移らせていただきます

□委員

有珠のまなびの里のサッカー場ですが、大人の利用はあるか？

●事務局

社会人チームの利用が相当数あり、夜間に限らず休日に大会が開催されるなどしております。

□委員

サッカー場は直営ということだが将来的にもその方針なのか？

●事務局

先ほど課題でも触れさせていただいたが、条件が整えば指定管理に移行したいと考えております。

ただしクリアしなければいけない課題があり、それをどうすればよいのかを考えている状況であり、それらが整理されれば指定管理に移行したいと思っております。

□委員

5年前までは大滝にも野球少年団があったが、指導者がいなくなり無くなってしまった。

伊達もチームが少なくなった。

□委員

団体競技は実施できない。バドミントンなどになってしまう。

□委員

まなびの里サッカー場だが、校舎を活かして宿泊可能とすることで、スポーツのみならず、周辺には海や山もあるので、スポーツ以外の活用もできると思うので整備を検討してほしい。

●事務局

昔からそのような構想がありましたし、今現在もあきらめてはおりませんが、宿泊させるとなると様々な法律をクリアしなければならず、防火や衛生面など安全面を確保しなければなりません。

それにはどのくらいの費用がかかるのかなどの問題もあるが、そのような方向で進めるべきであるというご意見なら提言に盛り込みたいと思います。

昔は青年の家があり、宿泊を伴うものというのは子供達にとっても楽しみなものなのではないかと思う。

スポーツの合宿としても利用できるだろうし、社会教育的な事業も実施できるのではないかととも思う。

あまり豪華な施設とすることはできないが、事業の幅は広がるのではないかととも考えております。

□委員

館山野球場はベンチの更新など整備は進んでいるか？

ナイター照明はあるか？

●事務局

トイレの更新は行いました。

ナイター設備はありませんが、長和小・伊達小に夜間照明を設置しており、少年団や社会人チームの夜間の練習などに利用されております。

館山球場に設置するべきとの意見があれば、ニーズの問題もありますが、提言に盛り込みますが。

□委員

伊達小は父ちゃんソフトボールがあるので、夜間の利用がある。

長和小は少年団の育成のために夜間の利用がされている。

□委員

少年団の冬期の練習は自前の施設で練習しているのか？

□委員

各チーム倉庫などで練習を行っている。

●部会長

先ほど、学校開放に関するご意見があったが。

□委員

黄金小が閉校となるが、黄金小体育館を利用している団体はどのくらいあるのか？

自治会でも利用している団体の活動の場が無くなるのではないかとの話が出てきている。

そこでどうせなら旧達南中の体育館を開放してはどうか？との意見も出ている。

●事務局

黄金小を利用している団体は全部で3団体あります。

黄金小が統合される方針が決まったのは最近ということもあり、現状、その先の体育館の開放をどうするかまでは考えておりません。

達南中を閉校する際にも開放の話は出ましたが、体育館のみを利用するために、暖房設備などを改修する費用におよそ300万円程度の費用がかかるとの試算がありました。

なお、体育館の暖房がペレット燃料であり、種火を常時焚いておく必要もあり安全面からも断念した経緯がある。

現段階では黄金小を閉校した後の活用方法については白紙なので、そこが見えない限りは何ともいえない。

ただし、達南中しかり黄金小しかり利用する施設が無くなるというのでその活用を考えてほしいということであれば、提言に盛り込むこともできるが？

□委員

耐震など経費がかかる問題ではあるが・・・。

地域ではそのような話が出ており、私がこの会議を出るので、そうした話も出ていることを伝えてほしいことを言われた。

●部会長

スポーツ推進委員の担い手がいなくなっているという課題があったが？

●事務局

地域からの推薦で成り立っている委員会だが、欠員が出ている地域がある現状です。

□委員

スポーツ推進委員になるということは、イコール各地域の体育振興会のお手伝いが絡んでくるので相当活動量が多くなる。

そこを分離できれば担い手は増えるのではないかと思う。土日休日の負担が相当ある。

各体育振興会には競技ごとに役員さんがいるが、スポーツ推進委員は全てに動員される。

頼まれた時にはスポーツ推進委員をお願いしますとしか言われず、その後に体育振興会の行事にも出なければなりませんと言われ、若干だまされたような・・・。

他の委員と話をすると他の地域も同様である。
半ボランティアというのはわかっていたが、地域のイベントは全くのボランティアである。

●部会長・事務局

担い手がないというだけでなく、負担を軽減する仕組みを考えるということ
を提言に盛り込むこととしたいと思います。

青少年指導員も同様に・・・

□委員

ハーフマラソン・ノルディックウォーキング・スキーマラソンでは、お手伝いや
ボランティアを募集しているのか？

●事務局

公募はしていませんが、地域の方やスポーツ推進委員にお手伝いをお願いして
おります。

□委員

よく分かっていないボランティアがくると余計な手間がかかり、事務局が非常に
大変なことになる。

なので、マラソンなら何高校の陸上部といった風に、決まった団体からの動員が
良いのかな？と思う。

□委員

団体向けにボランティア講座を実施してはどうか？
大会を続けていくには若い人の育成も大事だと思う。

●部会長

そのあたりを提言に盛り込むこととしたい。

(4) その他

【特になし】

5. 閉会（事務局）